

2022年度 勤務医負担軽減計画表

	部署	項目	具体的な内容
業務の役割分担	看護部	救急トリアージナースの設置	・夜間・休日外来に重症度を判断し振り分けをするナースを配置する
		静脈注射実施	・IVナース制度を構築し実施する
		病状説明時の同席とフィードバック	・病状説明には同席し、患者家族の理解を確認し説明不足を解消する
		看護外来の設置	・リンパ浮腫、フットケア、認知症支援、禁煙外来等の各種外来を設置し、相談や指導、処置を行う
		助産師外来の拡大と院内助産の推進	・助産師外来の枠を広げる ・院内助産を推進する
		入院前支援看護師の活用	・入院時の支援を推進する
	画像診断科	CT/MRIの造影剤注入の確認	・CT/MRI造影剤の注入確認、抜針・止血 ・CTコロノグラフィの検査手技(空気の吸引) ・造影剤注入装置からの動脈への造影剤注入行為。
		検査に関する説明・相談	・患者様より予約検査に対する問い合わせに対応。
		検査時、異常を疑った場合の対応	・超音波スクリーニング検査施行、異常疑った際の放射線科医・オーダー医への連絡。 ・胃透視施行、異常を疑った際の放射線科医への連絡 ・注腸透視施行、異常を疑った際の放射線科医への連絡
	薬剤科	病棟薬剤管理指導業務の充実	・薬剤選択等に関し積極的な処方提案。 ・薬物療法を受けている患者への薬学的管理の実施
		持参薬鑑別入力と持参薬使用の可否	・手術・検査に影響する薬剤、重複投与やコンプライアンスを評価し円滑に薬物療法が継続されるように確認する。
		薬物アレルギーの情報入力	・副作用情報自体の信頼性を確保し、情報を協議、評価し、電子カルテに入力する。
		外来診療支援	外来化学療法、外来緩和医療における処方支援
	検査科	データの迅速報告	・医師が速やかに気付くべき異常値を技師から伝える。
	リハビリテーション科	リハビリテーションにおける患者への説明	・リハビリテーション総合計画実施計画書の完成と患者への説明。 ・目標設定等・管理シートの作成と患者への説明。
	栄養科	アレルギー食への対応	・入院時面談にて食物アレルギーや禁忌食品を確認し、患者情報及び食事オーダーの入力する。
		嚥下職の見直し	・誤嚥リスク予防として接触嚥下学会の分類に基づいた嚥下食を構築する。
		食事箋の確認	・医師が発行する食事箋内容に不備がないか確認する。
		入院患者の適切な栄養管理	・適切な栄養管理(補給栄養内容)の提案をし、患者の栄養維持改善を図る。
		栄養指導実施と継続予約の取得	・適切な指導を実施し、医師の指導負担を軽減する。また、必要に応じ継続した指導を行うため予約を取得する。
	ME科	人工呼吸器からの離脱補助	・呼吸サポートチーム(RST)の設置
		医療機器を使用した処置に介入	・積極的な介入により、業務の充実を図る。
	事務部	予約センターの業務拡充	・診療の変更時に付随する検査も含めた変更を出来るようにする他、業務内容の見直しと拡充を図る。
		医師事務作業補助者の配置	・医師の指示の下に、文書作成補助を行う。 ・医師の指示の下、大学病院等に提出する書類に必要なデータ収集を行う。
		通訳業務の充実	・通訳者を充実し、外国人に対する診療に速やかに対応する。
	その他	退院調整業務	1名の社会福祉士が介入。医師、病棟師長、専任の看護師と共に退院調整業務を行い、医師の負担軽減に努めている。
	労働時間の管理等	当直体制	・院外非常勤医師が一定の当直を行っている。 ・女性医師の当直回数軽減・免除 ・当直明け医師が翌日の外来診療に入らないよう配慮。
働きやすい職場環境		・3日あるいは4日常勤医師の採用取組 ・時間単位の有給取得制度の導入	